

F-7 最近の生活問題に対する家政学および家政学原論の役割と方法 県立新潟女短大 柳原文一

目的 物価狂乱その他のわがわがの生活をとらざる諸問題に対して、本来生活と守るべき役割をもつ家政学が無肉心・無力のように見えるのは心外であるという声は聞かれる。これはどうしたことか。私にこの10年余りこの問題を考えてきたが、ここで全家政学関係者にこの問題を考えてもらわねばならぬと思ひ、こゝに問題を提起するものである。この問題は家政学の本質にのめらる重要問題でありながら、避けられざるにたつてきた。しかし政治の中心に生活問題にたつてきた現在、家政学はこの問題をいつまでも避けていたのでは、その真価を問われることとなる。今こそ原点へ帰つて本質論を討議すべきではないか。

方法 思弁的方法による。

結果 家政学の本質は実践にあることと余り異論は乏しいようであるが、実践の学問的方法論については余り研究されていない。実践の内容も自然科学的のものおよび家庭内の問題が大部分である。こゝに家政学の対象の範囲の問題がある。さうな種々の現象の理論的説明だけでなく、その問題解決のための方法に次々に研究されるべきである。家政学原論はその中枢・統轄部門にあるが、対象・範囲・内容・方法等を家政学の全部門にわたつて検討、研究する任務をもつてゐる。家政学原論の研究方法も実証的であるべきであるといふ人がいるが、その人々その模範を示すべきである。私に原論の研究に現在最も必要をもち、全体的見識した構成と独創性であると思ふ。原論の研究方法について多くの討論を望まらることを期待する。